

2. SDGs 目標別ポイント解説



目標1: 多くのSDGs 目標との関わりが多い貧困問題の解決

(1) SDGs が解決を目指している貧困問題の現状

「貧困をなくそう」という課題は、SDGs の 169 目標のなかでも、他の目標と関わりが最も多い項目です。貧困は様々な要因から生じている問題であることから、世界中で包括的な取り組みが必要です。

世界の技術や文化が発展しているとはいえ、世界中には、食べ物が手に入らず命を落としてしまう子どもも多く、まだ多くの国の貧困問題は解決されておらず、苦しんでいる人は少なくありません。

これは、当該国だけが引き起こしている問題ではなく、先進国にも大きな責任があるということを忘れてはなりません。

(2) 2030 年までに目指す目標

貧困に陥ってしまった人々を救うために、わが国では農林水産省公式サイトで、具体的に次の 2 つの目標を示しています。

- ①世界中で極度の貧困にある人をなくすこと
- ②様々な次元で貧困ラインを下回っている人の割合を半減させること

貧困をなくすためには、国の制度やサービス、インフラを整える必要があります。金銭的に収入が少ないだけでなく、食べるものが手に入らずに栄養失調になったり、病気になっても適切な医療を受けられずに命を落とす人が少なくありません。

また、国の設備が整っていないがために、自由に移動ができないケースもあるでしょうし、社会的な差別などで虐げられ、苦しい生活をおくっている人も多くおり、現在、世界で 8 億人以上の人々が 1 日 1.9 ドル未満で生活しているという結果が発表されています。

SDGs が掲げている目標 1 「貧困をなくそう」の目指す未来は、これらの人々を救い、2030 年までに 1 日 1.25 ドル未満での生活者をなくすというものです。

(3) 我が国における子どもの貧困の現状について

SDGs が掲げている目標 1 と比較すると、あまり大きな問題と捉えにくいかもしれませんが、日本では、7人に1人の子どもが貧困状態にあると言われています。

貧困の定義づけとして、「絶対的貧困」と「相対的貧困」の2種類があり、「絶対的貧困」とは、途上国や紛争地などで人間として最低限の生活をも営むことができないような状態を指します。

一方、「相対的貧困」とは、国民の標準的な生活水準に比べて、所得が半分以下である事を指し、日本における貧困問題は、後者にあたります。

子どもの貧困問題が発生する原因の一つに、ひとり親家庭の増加があげられ、統計局によると、ここ25年間でひとり親家庭は約1.5倍に増えています。

子育て世代では、正規雇用の労働者が減って非正規雇用者が増えており、その中にはさらに、フルタイム働いてもギリギリの生活さえ維持が困難である「ワーキングプア」と呼ばれる層が増えている結果、子どもの貧困を引き起こしています。

ひとり親世帯の貧困率は48.1%と半数近くに及び、他国と比べても極めて厳しい状況にあります。(厚生労働省 2019年「国民生活基礎調査」) この貧困問題は連鎖し、生活保護を受給していた家庭の子どもの約30%が、将来同じように生活保護を受けるというデータが出ています。親の収入が低いために塾通いや進学を諦めるといった、十分な教育を受けられないことが、子どもたちの将来の仕事や生活に関わってくるのです。

(4) 子どもの貧困問題に対して私たちができること

子どもの貧困問題を解決するためには、貧困世帯の生活基盤を整備する川上政策が最も重要な取り組みであり、主には政府や行政側の役割です。(具体的には：住宅手当など各種手当の継続的な支給、子育てに配慮した就労環境の整備、やむを得ない場合の生活保護の利用促進など)

一方、個人、企業、および団体それぞれのレベルでできることもあります。(例：こども食堂、食料寄付など) このような取り組みは、1回の効果としては限定的であり、私たち一人ひとりが出来る個人レベルでの支援であっても、多くの人々が取り組むことによって、継続的な支援が可能となり、子どもの貧困から守ることもつながります。

<執筆者> 株式会社 吉岡経営センター

コンサルティング部 常務執行役員 常盤 武志

<プロフィール> 中小企業、および福祉施設への「人事賃金制度構築」「社員研修」に取り組み、100社以上の支援実績あり。